



野菜を田んぼでつくってみました その結果とヒント

関東管内では、国営緊急農地再編整備事業「茨城中部地区」をはじめ、多くの地区ではほ場整備事業が実施されています。ほ場整備事業により区画整理、農道を整備することで、作業効率が良くなるほか、排水路やほ場内暗渠を整備することにより事業実施前と比較して、ほ場の排水性が向上します。排水性が向上することで乾田化し、小麦、大豆、野菜などの畑作物の栽培に適したほ場になります。

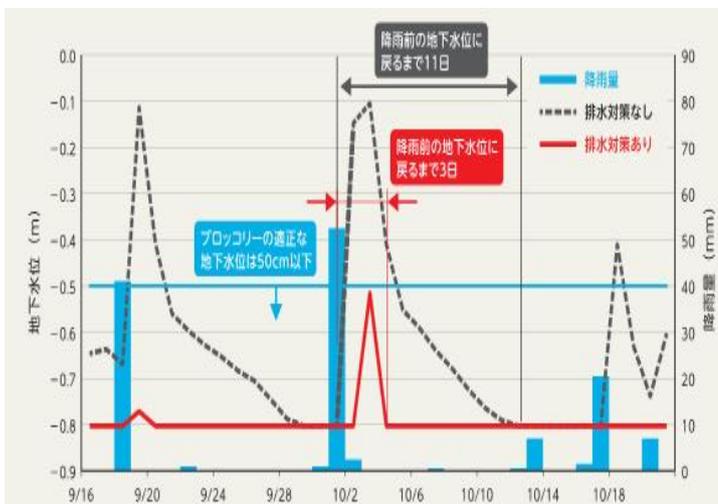
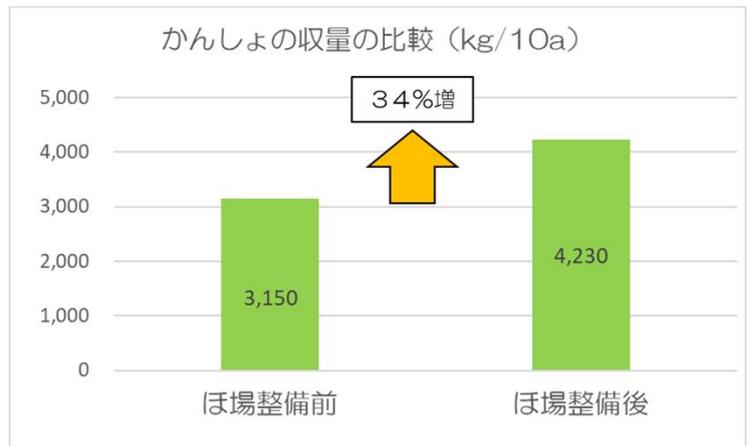
関東農政局では、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構及び地元関係機関と協力し、国営茨城中部地区と国営かんがい排水事業「栃木南部地区」に調査ほ場を設置し、野菜の栽培実証調査を行っています。

ここでは、その調査結果と営農で対応可能な排水改良技術を紹介します。

◆栽培結果

ほ場整備により排水路、ほ場暗渠を整備したことで、ほ場の排水性は改善され、降雨後の土壤に含まれる水分量や地下水位は速やかに低下していく傾向が見られました。

かんしょの10aあたりの収穫量は、ほ場整備前は3,150kg/10aでしたが、ほ場整備後は4,230kg/10aと34%増加しました。



◆栽培のヒント

栃木南部地区（栃木県小山市他）では行政機関や農家等が水田でのブロッコリー栽培の拡大に取り組んでいます。栽培にあたっては、ほ場内の排水性を向上されることが重要なことから、トラクターにカットドレーン※を取り付け補助暗渠を施工しています。その結果、降雨によりほ場の地下水位が上昇しても速やかに低下することが確認されました。また、まとめて水田畑利用することで地下水位の上昇を抑える効果が確認できました。※土壌をブロック状に切断し四角形の空隙を開ける農機具 (p.7)。